

地域自主運行バス『豊殿地区循環バス』の取り組みについて

長野県上田市

豊殿地区循環バス運営委員会 委員長 神林芳久

I 豊殿地区について

豊殿（ほうでん）地区は、上田市の東の玄関口である上信越自動車道の上田菅平インターチェンジの近くに位置し、田園風景がひろがる豊かな農業振興地域で、米・麦・りんご・巨峰・野菜等の生産が盛んな地区です。

当地区は、世帯数 2,000 戸余、人口 5,000 人余を擁し、公共交通は廃止路線代替バスの「柵津線」「豊殿線」と、上田市が運行する「オレンジバス」が運行されており、一見利便性の高い地域と思われそうですが、バスは幹線道路運行のため、バス停までは 10 分から 30 分を要するため、高齢者には不慣れた状況にありました。

そこで、地域内の各自治会、診療所、ショッピングセンター、温泉施設などを巡回し、路線バスとオレンジバスとの接続にも配慮した循環バスの運行について研究することを豊殿地区振興会常任理事会で決定するに至りました。

II 豊殿地区循環バスの目的

- (1) 交通弱者（高齢者・障害者など）の交通手段確保に、地域住民で支える福祉循環バスの実現。
- (2) 循環バスによって、地域の拠り所ができる。
 - ・グループ参加・社会参加により、ショッピングセンター、診療所、温泉施設、公共機関へと出かけやすくなり、地域の新たなコミュニティーの場となる。【引きこもり防止】
 - ・小中学生の通学と地域内の安全・安心への効果を期待。
 - ・地域の防犯予防効果への期待。
- (3) 高齢者（特に一人暮らし）が、グループ参加・社会参加をすることができれば、健康な生活が可能となり、医療費・介護費を軽減する地域づくりを目指す。【介護予防効果】
- (4) 介護保険料・医療保険料と同じように、将来必要になるだろうことを予測して、循環バスを保険的な見地で考えることも必要かと思われる。【将来に備えることが保険】
- (5) 豊殿地域に、診療所・特別養護老人ホーム・訪問看護ステーションが誕生し、循環バスが加わったことにより福祉のモデル地域づくりが着実に進んでいる。



III 経過（年度別の主な検討内容等）

[平成 14 年～17 年]

- ① 平成 14 年 4 月 20 日豊殿地区振興会定期総会（循環バス研究委員会設置について決定）
- ② 平成 14 年 7 月 振興会評議委員により、各自治会で地域内循環バス自治会要望基礎調査を実施。その結果、循環バスが必要との結論となる。
- ③ 平成 14 年 10 月 第 1 回研究委員会開催（上田市が事務局となり研究委員会がスタート）
- ④ 以降、研究委員会開催 26 回、自治会長・バス運営委員会合同会議開催 6 回、バス常任委員会随時開催、バス運営委員会随時開催、住民アンケート 2 回実施、住民大会開催 1 回、住民の意思確認（署名）を実施。

[平成 17 年度]

各会議（研究委員会、常任委員会、運営委員会、自治会長合同会議を随時開催）を重ね、アンケートの結果を踏まえ試験運行を決定し、研究委員会から運営委員会に切り替える。

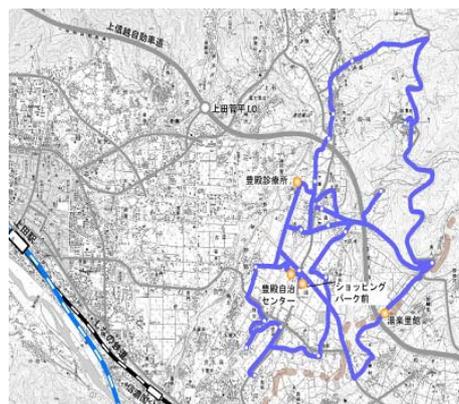
主な検討内容は次のとおり

- ① 平成 17 年 7 月、交通弱者（高齢者・障害者など）の交通手段確保に、住民全体で支える福祉循環バスの実現を目指して、住民大会を開催。
- ② 全住民負担による福祉循環バスの運行。
- ③ 週 2 回（火曜日、金曜日）地区内各自治会、診療所、ショッピングパーク、温泉施設などを巡回し、オレンジバスとの接続も配慮する。
- ④ 運行は、既存の業者（タクシー会社など）に委託し、9 人乗りジャンボタクシーで行なう。
- ⑤ 2 か月の試行運行を各戸 300 円一律負担で行い、その結果により本運行へ移せるか検討する。試験運行時の利用者負担は 1 回 100 円とする。
- ⑥ 実現に向けて、全地域住民の本意を確認するため 2 回のアンケート調査を実施した。
【第 1 回アンケート 平成 16 年】 16 自治会 1,445 戸に配布。バス必要比率 68%

【第2回アンケート 平成17年】16自治会1,468戸に配布。バス必要比率76%

[平成18年度]

各会議（常任委員会、運営委員会、自治会長合同会議を随時開催）を重ね、試験運行の日程を決定。長野県の「コモンズ支援金」を申請。



- ① 平成18年4月18日から循環バスの試験運行を開始。運行時に童謡のメロディーを流すことにする。
- ② 毎週（火曜日、金曜日）2回運行。1日4便運行。
- ③ 9人乗りジャンボタクシーにより運行。タクシー事業者と委託契約
- ④ 「コモンズ支援金」130万円を申請。満額採択を受ける。
- ⑤ 試験運行期間を10月末まで延長。
- ⑥ 試験運行実績

運行回数 56回	利用者 1,100人	1回平均 19.6人	続行便 53便
----------	------------	------------	---------

- ⑦ 試験運行実績を踏まえ、住民負担を理解いただくため本運行について住民の意思確認を実施。

依頼住民戸数 1,460戸	賛成署名戸数 1,138戸	賛成署名比率 78%
---------------	---------------	------------

- ⑧ この結果を受け、自治会長・バス運営委員会合同会議で地区内循環バスの本運行を決定。

[平成19年度]

- ① 試験運行の状況、利用者の声、住民の意見を踏まえ、平成19年1月12日から本運行を開始。
- ② 本運行の住民負担額は、年額各戸1,000円
- ③ 循環バスの愛称を募集。応募の中から、愛称を「あやめ号」に決定する。
- ④ 年額1,000円の住民負担だけでは、週2回の運行が不可能のため、地域内の企業、個人を対象に賛助金を依頼。80万円の協力をいただいた。

[平成20年度]

- ① 上田市からの補助金について

平成18年8月に、上田市へ運行経費の一部支援について陳情を行なったが、上田市では当時、公共交通のあり方を見直しをしており補助金を受けることはできなかった。その後策定された「長野県上田地域における公共交通活性化プラン」において、地域自主運行バスへの支援についても盛り込まれ、運行経費の1/3以内（上限100万円）の補助を受けられることとなった。経費負担 住民負担2/3（各戸年額1,000円と利用料）、市補助金1/3

■運行実績

項目	期間	運行日数	利用者	1日平均	続行便
試験運行	平成18年4～10月	56日	1,100人	19.6人	53台
暫定運行	平成18年11～12月	12日	225人	18.8人	6台
本運行	平成19年1～12月	92日	1,920人	20.9人	73台
	平成20年1～12月	95日	1,927人	20.3人	83台

IV まとめ

以上経過と本運行実績等を紹介しましたが、その中で困難だった点及び改善点をまとめました。

- (1) 全国的にも例がなく、実現に至るまで相当な時間がかかった。
- (2) 住民の一律負担に理解を求めるのに時間を要した。
- (3) アンケート調査2回、住民大会1回を開催し、住民への理解を深めた。
- (4) 年額1,000円の住民負担については、住民の意思確認で世帯主の賛成署名をまとめた。
- (5) 循環バスの存在があることによって、地域の安心・安全感が高まった。
- (6) 運行経費の一部を負担していることで、住民の地域参画に意識が高まった。
- (7) 住民の循環バスに対する税金負担のイメージが強く、本運行を開始したが、市の行政支援を求める声も多かった。今回上田市が、「地域自主運行交通システム補助金」制度を決定されたことは、当地区に明るいニュースとして広がり、今後の運行に希望をつないだ。

注釈

「オレンジバス」…高齢者の移手段の確保等のため、高齢者福祉センターの送迎バスを平成13年に途中乗降できるものとした。旧上田市内6地区から、上田駅・高齢者福祉センターを結び、各地域から週二回運行（運賃100円。60歳以上無料）。
 「豊殿地区振興会」…平成5年に創設され、自治会三役経験者、自治会連合会役員経験者などで構成。自治会役員は1年ごとに代わるが多いが、振興会の設立により長期的な課題を解決していくことが可能となった。8つの専門委員会を設置。
 「コモンズ支援金」…長野県独自の補助制度で、モデル性が高く、他の地域にも普及が見込まれる事業等 に対して行った補助。
 「続行便」…バスに乗り切れなかった場合の対応として、基本便の定員を超える利用者があった場合には、必要な区間において近くのタクシーを呼んで、連なって運行するシステム。